

# 特別賞 CLA 2010

## 第27回全国都市緑化ならフェア 「やまと花ごよみ2010」

株式会社空間創研 後藤逸成・泉 崇・駒井 修・宇戸睦雄・吉田昌弘

2010年の都市緑化フェアは、平城遷都1300年の節目にあたる平成22年秋に奈良県で開催され、既存の県営馬見丘陵公園をメイン会場とし、平城宮跡・藤原宮跡等をテーマ会場とした。

### □新しいフェアを目指して

奈良特有の資源を活かし、花のみならず既存樹木や景観とも調和し、風景に馴染む多彩で魅力的な会場構成、テーマ性をもった多彩なデザイン、日本の風土がもつ季節の移ろいを表現した修景など、量より質を高める効果的な演出によりこれまでの緑化フェアとは一線を画す、きめ細やかな景観演出を会場全域に展開した。

### □奈良を活かしたゾーン展開

メイン会場は、地理的特性等から5つのゾーンで構成した。まず、「大和青垣」を背景とした奈良の大きな景色と出展展開によって花と緑と人が集い繋がる場となる『集いの丘』、奈良を代表する花であるダリアによる象徴的な空間を創造し、疎林景観の中に多様な出展展開を行い、花を通じた県民との協働・交流によって次代の奈良へ繋ぐきっかけづくりの場となる大花壇を展開した『花の都』、さらに、来場者をもてなす花修景、飲食や物販等で賑わうエントランス空間である『賑わいの広場』は、来場者と奈良の花と緑が最初に対面する空間となり、そして『未来の華』では、会場修景と出展参加の草花と緑を競演させ、草花のもつ多様な



約1300年前に伝わったとされる「青海波」文様をデザインモチーフとした大花壇



墳丘を背景に、自然に咲く花のように粗密をつけて配植した古の風景庭園

作品概要

作品名：第27回全国都市緑化ならフェア  
「やまと花ごよみ2010」  
所在地：奈良県北葛城郡広陵町・河合町  
発注：奈良県高田土木事務所  
第27回全国都市緑化ならフェア実行委員会  
設計：株式会社空間創研  
監理：第27回全国都市緑化ならフェア実行委員会  
施工：植丈造園，株式会社山口造園土木，植清造園，株式会社三和，吉川造園土木，株式会社大和日昇緑化，株式会社植田造園土木  
設計期間：平成20年5月～平成22年12月（設計管理期間を含む）  
施工期間：平成22年3月～9月（維持管理期間を除く）  
規模：約16.0ha  
主要施設：主催者による展示庭園，会場修景花壇及びフェアに関わる諸施設・建物等

作品評

この作品は平成22年9月18日から11月14日までの58日間、奈良県で開催された第27回全国都市緑化ならフェアの会場に関する計画・設計及び監理を一貫して行った作品である。  
既存の県営馬見丘陵公園をメイン会場とし、周辺を取り込み、一望する景観，既存公園内の起伏を活かした景観など立地条件・景観を活かした会場づくりは高く評価できる。  
また、平城遷都1300年を迎えた奈良にふさわしい日本の原風景の空間を表現した「古の風景庭園」や新しい花風景を創出するために、現地地球根から植えたという「ダリア園」等緑化フェアならではのまとまった特徴ある花壇設計から園路沿いの細かな修景の演出に至るまで、現場での設計デザイン監理を活かした会場として整備されており、非常に優れた業務であるといえる。  
今後、県民参加型としてこのフェアに参加された方々により、さらに「花の都」奈良づくりが広まっていくことを期待する。

魅力を引き出すことによって多彩で感動的な花風景を展開し、これからの「まちづくり」「環境づくり」へ向けて、暮らしのなかで様々な場面を彩る花と緑の提案を行った。最後に、既存の良好な景観が残る『はじまりは奈良』では、「森」「野・野辺」「水辺」景観と万葉の歌に登場する植物を用いて構成された奈良らしい風景庭園や、県下の花人によるもてなしときっかけづく

りの場を創出した。

本フェアは「日本文化の原点」に連なる花と緑の文化のもつ価値を再発見・再認識する場であるとともに、花と緑のまちづくり『「花の都」奈良づくり』の推進力となるきっかけを創る場として多くの県民をはじめ企業、団体等の参画・協働のもと実現したフェアである。



ならフェア会場の断面図



芝生越しに「大和青垣」を望む



県民と協働した花植えにより交流の場を創出



来場者を草花で迎えるエントランス空間



多彩な品種のダリアの展示により象徴的な風景を演出



奈良を代表する花であるダリア



万葉集にも詠まれた秋の七草で彩る草地空間



多様な草花の特徴を活かしなが互いの花が調和する